

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 若松中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

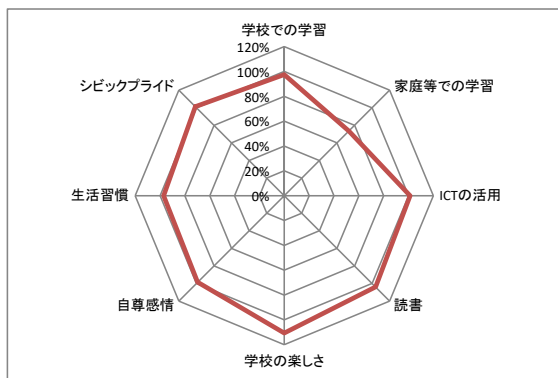
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を少し下回っている。特に、書く・読むの領域が大きく下回り課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の下線部の文字を漢字に書き直す問題。	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っている。図形・データ活用の領域が大きく下回り課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	5個の椅子を重ねたときの高さを求める問題。	
	努力が必要な問題	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○シビックプライド、自尊感情、学級の楽しさ、読書について肯定的な回答をした児童の割合が高く見られる。特別活動等で自尊感情を高めるような指導、道徳科での学習・キャリア教育等が成果を上げていると考えられる。
○家庭等での学習や生活習慣については、全国平均をやや下回っている。また、一日の学習時間については、全国平均を大きく下回っている。自分で計画を立て、家での勉強時間が増やせるよう引き続き指導を行っていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科では「読むこと」「書くこと」に課題が見られ、一単位時間の中で必ず全体やグループで交流し合う活動を取り上げ、考えを書いたノートやタブレット等を活用している。「まとめ」「振り返り」の場面でも「書く活動」を位置づけ児童が自身の考えを表出できるようにしている。算数科では、図形・データ活用領域に課題が見られる。授業改善を図るとともに、学習プリントやタブレットを活用して個別に学習に取り組めるようにしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭等での学習については、学校の授業時間以外や土・日や学校が休みの日の勉強時間が依然少ない。内容が充実していたり、まとめ方が上手なノートの紹介をして、自主学習の質を向上させるよう取り組んでいる。生活習慣については、昨年度から随分向上し、全国平均とほぼ変わらなくなっている。早寝早起き朝ごはん・読書の大切さやスマートフォンの使用時間等を今後も通信等で家庭や地域に啓発していく。